

<総括>

出題数	現代文 2題・古文 1題・漢文 1題	試験時間	120分
-----	--------------------	------	------

- ・Ⅰ 安定した日常は予期せぬ出来事によってもろくも崩れ去るが、そうした事態を経験してなお、日常を紡いでいくことのかげがえのなさについて論じた評論。本文は半ページほど増加した。前年度に引き続き漢字問題が出題されず、記述問題の設問数は4問。解答欄がすべて3.5cm幅であった。
- ・Ⅱ 「ゴッドハルト鉄道」に乗ることになり、さまざまに想像をふくらませる「わたし」を描いた小説。本文は半ページ減少したが、解答分量、設問数は前年度と比べ変化はなかった。表現効果を問う問題が本年度も出題された。

<本文分析>

大問番号	Ⅰ	Ⅱ
出典 (作者)	『出逢いのあわい——九鬼周造における存在論理学と邂逅の倫理』(宮野真生子)	「ゴッドハルト鉄道」(多和田葉子)
頻出度合・的中等	なし	入試問題において時折見かける作者である。
分量前年比較	減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加	減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加
難易前年比較	易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化	易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化

<大問分析>

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)
Ⅰ	評論	問一	記述式	標準	『無の深淵』の意味するところを明らかにしながら、傍線部の内容を説明する。(3.5cm幅) 本文中の「有り—難い」という語が一般的な感謝の表現「有り難い」とどう違うのかを説明する。(3.5cm幅) 傍線部「それ」の内容を示しつつ、「事実的な偶然性を掴むこと」になる理由を説明する。(3.5cm幅) 本文の趣旨をふまえ、「他者への理解を安易に表明する」べきではない理由を説明する。(3.5cm幅)
		問二	記述式	難	
		問三	記述式	標準	
		問四	記述式	標準	
Ⅱ	小説	問一	記述式	標準	「わたし」が「貫通」という言葉を好まない理由を説明する。「わたし」のもつイメージに注目。(3.5cm幅) 傍線部の内容説明。山について人びとが持っている思いの共通性に注目する。(3.5cm幅) 傍線部の理由説明。日本人とスイス人の国旗についての捉え方の違いを整理する。(3.5cm幅) 傍線部の一部についての表現効果の説明。「わたし」の感受性に着眼する。(3.5cm幅)
		問二	記述式	やや難	
		問三	記述式	標準	
		問四	記述式	標準	

※難易度は5段階「難・やや難・標準・やや易・易」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

- ・Ⅰの評論では、意味段落の論旨を正確に把握した上で全体の主題を捉えられるよう、文脈を的確に読み解き、論理的に正確な説明をする練習を積み重ねたい。念のため、漢字の書き取りも練習しておこう。
- ・Ⅱの小説では、人物の心情を叙述に基づいて正確に読み取り、わかりやすく表現する練習を着実に積み重ねる必要がある、そのためにも語彙を豊かなものにしておきたい。表現効果に関わる設問、作品の鍵となるものに関わる設問についても、解答の基本的な構成を習得しておきたい。

国語 (現代文・古文・漢文) 大阪大学 文学部 (前期) 2 / 4

<総括>

出題数	現代文 2題・古文 1題・漢文 1題	試験時間	120分
-----	--------------------	------	------

- ・文学部の入試問題として、紀行文が出題されるのは過去十年で初めて。ただし、年度をさかのぼれば、2012年に同出典からの出題がある。
- ・設問構成はほぼ例年どおり。例年よく出題される短語句の意味を問う設問はなかったが、現代語訳のなかに一箇所で一単語の意味を問う出題があった。
- ・例年よく出題される和歌の設問があり、前年度と同様に現代語訳だった。
- ・例年よく出題されている、文章全体の主旨をふまえた内容説明はなかった。

<本文分析>

大問番号	Ⅳ
出典 (作者)	『都のつと』 (宗久)
頻出度合 ・的中等	作品は稀。的中なし。
分量 前年比較	分量 (減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加) 約1200字 (昨年1440字)
難易 前年比較	難易 (易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)

<大問分析>

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)
Ⅳ	紀行文	問一	記述式	標準	現代語訳。傍線三箇所。着眼点となる重要語句等は、「おのづから」(1)、「あくがる」「まかる」(2)、「はかなくなる」「なほ」「～や～まし」(3)。なお、(3)については、「煙」の具体化が要求されている。
		問二	記述式	やや難	理由説明。傍線部で表明された作者の心情を説明する。前書きや注の情報をふまえて説明するところがやや難しい。
		問三	記述式	標準	内容説明。傍線部に至るまでの文脈をふまえた作者の心情を説明する。心情そのものは傍線部の「あはれに思ひやられ」をふまえる。
		問四 (一)	記述式	標準	現代語訳。着眼点となる重要語句は「名にたつ」。「本荒」の掛詞を反映させて訳出する。
		問四 (二)	記述式	標準	内容説明。「本荒の萩」について、二通りの解釈を本文から読解したうえで説明する。最終段落の内容を正確に理解するところが着眼点。

※難易度は5段階「難・やや難・標準・やや易・易」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

- ・重要古語や語法等の知識に習熟して、正確に現代語訳できる読解力を養うことが重要である。
- ・主語、目的語、指示内容などを考えながら、文章全体の展開や主旨を正確に理解する練習を平素から行っておくこと。
- ・現代語訳のみならず説明問題においても、文章全体の展開や主旨をふまえた記述力が要求されている。
- ・例年の傾向から、和歌について、修辞の指摘や説明問題をも意識した解釈の演習も必要である。

<総括>

出題数

現代文 2題・古文 1題・漢文 1題

試験時間

120分

インドの僧伽斯那が編纂し南朝の斉の時に求那毘地によって漢訳された仏教説話『百喻経』からの出題。愚者が長者に気に入られようとしてした行為が時期を見誤って、逆に裏目に出たという話。内容は読み取りやすい。本文の字数は昨年度よりやや増加した。設問数は昨年度と同じく5問、枝問はない。現代語訳は2問、内容説明の説明問題が2問で、現代語訳が1問増加、説明問題が1問減少した。書き下し文の問題は1問。昨年度と同様に「現代仮名遣いでもよい」というただし書きがある。返り点を施す問題は昨年度と同じく出題されなかった。

<本文分析>

大問番号	Ⅳ
出典 (作者)	南齊(南朝)・求那毘地『百喻経』
頻出度合 ・的中等	稀
分量 前年比較	分量(減少・やや減少・変化なし・ <b>やや増加</b> ・増加)(昨年)133字→(今年)152字
難易 前年比較	難易(易化・やや易化・ <b>変化なし</b> ・やや難化・難化)

<大問分析>

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)
Ⅳ	仏教説話	問一	記述式	やや易	現代語訳の問題。願望形「欲～」の用法と再読文字「当～」の用法。「唾」の主語は「長者」。
		問二	記述式	やや易	現代語訳の問題。「何以」の用法。述語の送り仮名が「踏む」と連体形になっているので疑問文であることに注意する。
		問三	記述式	やや易	書き下し文の問題。逆接の条件節を作る接続語「雖(いえども)」と願望形「欲～(～せんとほつす)」の用法。漢文の基本的語順に注意する。
		問四	記述式	標準	内容説明の問題。「得汝意」の意味は本文冒頭の一文「昔有長者～皆尽恭敬」を踏まえて考える。傍線部の直前の「以是～先踏」の内容を補う。
		問五	記述式	標準	内容説明の問題。傍線部の直前の「凡～反得苦惱」の内容を踏まえて傍線部を現代語訳して、物事を為すには時機の到来を見極めることが重要であるということを押さえる。

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

重要語句・慣用句や基本句形の知識に習熟し、比喻や具体例の提示などの修辞法にも慣れておく必要がある。本文を単に直訳するだけでなく、論の展開や筆者の意図を考えながら読む高度な読解力が必要なので、問題集などを利用して読解の訓練を積んでおくこと。中国の歴史、思想、文化に関する知識も身につけておく必要がある。